

Y-P Zuzie

子どもの理解を深め支援策を考える
Y-P アセスメント学級風土チェック視覚化ツール「Y-P Zuzie」活用パンフレット

こんな気づきや対話があります

STEP1 写真を配置しながら対話する



英語の授業で、Aさんは、ペア学習だと積極的。めあてがはっきりすれば取り組める子だから、国語でもそういう活動を入れるといいと思うよ。

Bさん最近、クラスで後ろ向きの発言が増えて、心配なんだけど、部活動ではどう？

音楽の授業では、このクラスって助け合う雰囲気があるよ。例えば、CさんがDさんを気にして声をかけることもあったし、クラスに温かい面があるから、もっと認めていいと思う。

- 具体的な支援策の話しあいにより 教師の力量を高めます
- 情報を共有して、チームで支援する風土をつくり、支援について共通理解できます
- 様々な見方を交流でき 多面的な子ども理解につながります

わたしは、目立つ子どもを中心にクラスを見ていた。目立たない子どもに意識が向いていなかった。発言だけでなく、ノートやプリントに書く場面を増やして、細かく見ていこう。そして、誰もが参加できて自己有用感を高める授業を工夫しよう。

STEP2 まとめシートにまとめる

STEP3 Y-Pアセスメントシートとあわせてさらに深める



自分の見方の偏りやくせに気づく等 教師の自己理解が豊かになり 教師としての幅が広がります

個人情報保護に関する注意事項

Y-P Zuzie は、児童生徒の個人写真データを使って、Y-P アセスメントの学級風土チェックを行うアプリケーションです。Y-P Zuzie で作成した画面は、教師の考えを視覚化したものであり、児童生徒の個人情報ではありません。

ただし、個人写真データ自体は、個人情報ですので、「横浜市立学校における個人情報の取扱いについて」に基づき、データの保管を厳重に行い、校内のみで扱うようにしてください。保管場所は、各学校の他の個人情報データと同様のセキュリティーレベルの場所にし、校外に出ることがないようにしてください。また、Y-P Zuzie には、パスワードをかけて保存する機能がありますので、保存の際は必ずその機能を使って、パスワードをかけてください。

なお、Y-P ZuzieDVDの各学校への配付にあたって、横浜市教育委員会事務局は、「横浜市個人情報の保護に関する条例」に従い、「個人情報を取り扱う事務開始届出」（平成25年4月1日付）を行いました。

Y-P アセスメント Y-P Zuzie 活用パンフレット
発行 平成 26 (2014) 年 横浜市教育委員会
©2014 City of Yokohama. All rights reserved.

監修：岡田守弘 犬塚文雄 芳川玲子 情報デザイン：須永剛司 小橋隆司 平野友規
研究協力校：横浜市立太田小学校 横浜市立伊勢山小学校 横浜市立永野小学校 横浜市立鶴見小学校 横浜市立霧が丘小中学校

Y-P Zuzie アプリケーションは科学技術振興機構 (JST) の 戦略的創造研究推進事業・須永 CREST 研究 (2006-2012) の成果である視覚構成ツール Zuzie を応用したものです。

Y-P Zuzie でできること 支援検討会

STEP1

写真を配置しながら 対話する

Y-P Zuzie は、パソコンの画面上で、下図のような3つのシートに顔写真を置きながら、複数の教師が対話し、子ども理解を深め、支援方法を検討していくための道具です。

ヒント 「1人でも、1つのシートだけでも」

Y-P Zuzieは、1人で取り組んでも、子ども理解、学級理解を深めることができます。

また、Y-P Zuzieによる支援検討会に慣れるまでは、「自分づくりシート」だけに取り組んでみるという方法もあります。



3つのシートに一人ひとりの 写真を置きながら対話を進めます

自分づくりシート (公正 × 寛容)

仲間づくり シート (自己表現 × 配慮)

集団づくりシート (課題遂行 × 合意形成)

一人ひとりについての理解が深まります

複数の教師（3～5人程度）がひとつのシートを見て、子どもの社会的スキルについて、考え、話し合いながら、写真を置いていきます。一人ひとりについての気づきや理解が自然に深まります。

学級集団への理解が深まります

Y-P Zuzie の3つのシートは横浜プログラムの3つのアプローチ（自分づくり・仲間づくり・集団づくり）によってつくられています。子どもの写真を置いたり、シートを比較したりするうちに、学級の風土が見えてきます。

STEP2 まとめシートにまとめる

写真を置き終わったら、次のような手順で「まとめシート」にメモしていきます。

1 シートに置いた写真の並び方を、大まかな図として描き、集団の傾向を見る。

2 シートごとの気づきや支援策を書く。

3 「公正・寛容」「自己表現・配慮」「課題遂行・合意形成」の6観点の中から、特に伸ばしたい観点を選んで記入する。さらに、その観点の中の伸ばしたいスキルを選び、実施するプログラムを決めて記入する。(p7参照)

4 「全体や個々の子どもについての気づきや支援策」、「教師自身の『子どもの見え方』についての気づき」を記入する。

まとめシートは、気づきや支援策を考えるためのメモです。これ以外にも自由に書き込みをしてください。また、写真を置いている途中でメモしていくことも有効です。

このまとめシートは、「Y・Y NET Teachers' Room 人権教育・児童生徒課（生徒指導）」と、「YCAN 学校便利帳 マニュアル・様式（カテゴリ別一覧）教務（児童生徒指導）」に掲載されています。



Y-P Zuzie を活用した 支援検討会のまとめシート

日付: H26. 5.20 参加教員: ○○、△△先生、□□先生、◎◎専任

観点ごとの傾向 ※考えのヒント・分布が上下や左右に偏っているか?・男女の差はないか?・特徴的な一部の子どもの印象で学級の傾向をとらえていないか?

気づきや支援策

2

- 公正が低い子が多い (気づき)
- 自分の考えに自信もてるように、スモールステップの学習を増やす (支援策)

1

公正

寛容

自分づくりシート

気づきや支援策

- 活発なクラスだと思っていけ、それは一部の子の印象だった。(気づき)
- △△先生に教わって、ペア学習やグループ学習を取り入れて、話しやすい場面をつくる。(支援策)

自己表現

配慮

仲間づくりシート

気づきや支援策

- 課題遂行は全体的に低い。(気づき)
- 公正や自己表現を伸ばす手だてに力を入れて、集団づくりにつなげる。(支援策)

課題遂行

合意形成

集団づくりシート

3 伸ばしたい観点とスキル

| 観点 | スキル | 実施するプログラム |
|------|----------|------------------------------|
| 自己表現 | ⑤ おきり伝える | 48 サイコロ・ペアトーク 23わたし言葉で会話しよう! |

4 気づきと支援策のまとめ

| 全体や個々の子どもについての気づきや支援策 | 教師自身の「子どもの見え方」についての気づき |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 活発な雰囲気なの8人位の子の発言が多いからで、半分以上の子が自分を出せていないことに気づいた。(気づき) Aさん、Bさん、Cさん、Dさんに対して、おきりものが言える子があまりいないことが課題だ。(気づき) 自分の意見があるのに出せない子たちのよいところをもっと認めて、意見を言う自信をもたせたい。(支援策) □□先生のノート指導の方法を参考にして、発言が少なくてもよく考えてノートに書いている子の自信につなげる。(支援策) ペア音読やミニ漢字テストのときに、EさんとFさんにしっかり個別指導して、達成感をもたせ、学力とともに自尊感情を高める。(支援策) | <ul style="list-style-type: none"> 目立つ子を中心に学級を判断していることに気づいた。もっと一人ひとりを見ていきたい。特にGさん、Hさん、Iさんのよさがあまり言えなかったから、明日から、よい面をもっと見つけたい。 公正や自己表現が低い子に対する、観察も足りないし、そういう子たちへの手立ても足りないから、もっと肯定的な声かけをしたい。昨年担任した学級も似ていたから、これは、自分の教師としての課題だと思う。 |

目立つ子どもを中心に学級を判断していることに気づいた。もっと一人ひとりを見ていきたい。特にGさん、Hさん、Iさんのよさを、わたしは見えていない。一人ひとりの写真を置いたら、今までわたしが感じていたのと違うクラスのイメージが見えてきた。

STEP3

Y-P アセスメントシートとあわせて さらに深める

子どもへのアンケートと Y-P Zuzie を併用して アセスメントを深めましょう

Y-P アセスメントは、教師の目による「学級風土チェック」と子どもへの「学校生活についてのアンケート」の二つの柱からできています。Y-P Zuzie は、学級風土チェックを視覚的に行う道具です。ですから、Y-P Zuzie で支援検討会を行う際に、子どもへのアンケートのデータ（学級分布図・個人プロフィール表）も、あわせて検討すれば、さらに深めることができます。

Y-P Zuzie (学級風土チェック)

教師の見える方



学校生活についてのアンケート

子どもの感じ方



教師の見える方と子どもの感じ方のズレをヒントとして
教師の自己理解と子ども理解が深まります

検討会のまとめを 実践に活かす

Y-P Zuzie を活用し さまざまな支援を考え実践しましょう

Y-P Zuzie により学級や個人に対するさまざまな支援策を考え、実践していくことが、横浜プログラムのめざしていることです。

一人で考えることには限界があります。豊かな経験や広い視野を伝えたり、新しいアイデアや柔軟な子どもの見方を共有したり、同僚どうしがたがいに支援策を出し合い、実践していくことをめざしましょう！

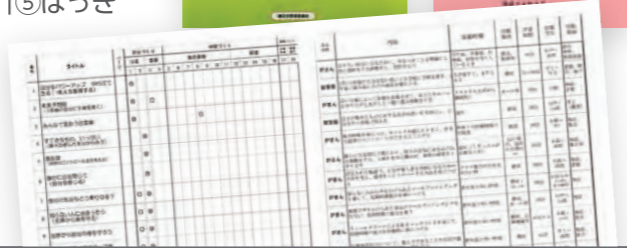


実践1

Y-P Zuzie による支援検討会のまとめから「指導プログラム」を選び実施する

下の表は、横浜プログラムの観点を示しています。Y-P Zuzie による支援検討会から、伸ばしたい観点が絞れたら、次に、伸ばしたいスキルを選びます。伸ばしたいスキルを決めれば、指導プログラム集のプログラム一覧(右写真下)により、適切な指導プログラムを選べるようになっています。

3～4ページのまとめシートの記入例では、「自己表現」の中の「⑤はっきり伝える」を伸ばしたいと考え、「48 サイコロ・ペアトーク」や「23 わたし言葉で会話しよう!」を選んでいきます。



Y-P アセスメント 観点表

| 3つのアプローチ | | 6つの観点とその具体 | 18のスキル | 対応するシート |
|----------|------|--|---|---|
| 自分づくり | 公正 | ・よいことはよい、悪いことは悪いと言える雰囲気がある ・場の雰囲気や人の意見に流されず、自分の意見や感じ方を表明できる | ①自分の意見をもつ ②自分なりの見方や感じ方をもつ |  |
| | 寛容 | ・失敗や意見の違いを温かく認め、包み込んでいこうとする雰囲気がある ・互いのよさや違いを認め、尊重していこうとする | ③自他のよさを見いだす ④自他の違いを認める | |
| 仲間づくり | 自己表現 | ・率直かつ適切な意志の伝達や感情交流がある ・友達との明快なコミュニケーションがとれる | ⑤はっきり伝える ⑥上手に質問をする ⑦きっぱり断る ⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う ⑩さわやかにあいさつする ⑪自己紹介をする |  |
| | 配慮 | ・思いやりのある言動・行動が自然に現れる ・友達の気持ちを推しはかかって行動ができる | ⑫やさしく頼む ⑬気持ちに共感する ⑭あたたかい言葉をかける ⑮しっかり話を聴く ⑯きちんと謝る | |
| 集団づくり | 課題遂行 | ・グループの目的や課題解決に意欲をもつ ・集団の課題・目標を達成するために話し合いを進めている | ⑰問題や課題の解決策をみんなで考える |  |
| | 合意形成 | ・意見や感情の違いを認めながら、集団の意見をまとめようとする ・みんなの意見を上手に取り入れて話し合いの調整をしている | ⑱互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする | |

事例

「指導プログラム」選びの事例1

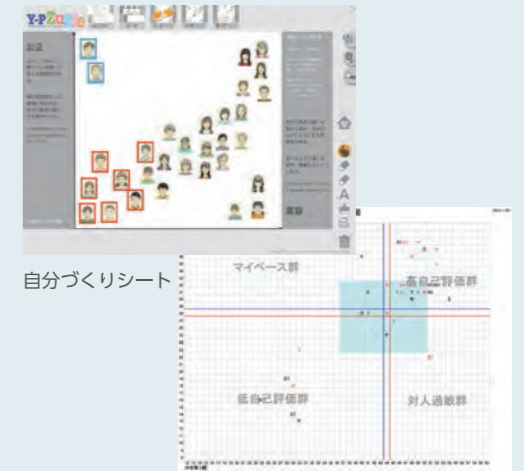
右の Y-P Zuzie 自分づくりシートの左下に置いた子どもたちの公正や寛容を高めていきたいと考えました。他の先生方の意見を聞く中で、自分の学級は、互いにけん制しあって考えを出せない雰囲気なのかも知れないと思いました。

もっと自分が出し合えるよう、互いの違いを認め合える風土づくりをめざして「寛容」の「④自他のちがいを認める」というスキルを高める指導プログラムがいいのではないかと考えました。

そして「④自他の違いを認める」を伸ばす指導プログラムの中の「19 考え方を広げよう」が、自分の学級の A さんや B さんに必要な前向きな考え方のもとになると思えたので、実践することにしました。

実践した指導プログラム「19 考え方を広げよう」

【プログラム活用の感想】 前向きで積極的な雰囲気の時間になりました。「なるほど」などと、相手の考えを認める声が出たり、笑い声が起きたりしました。ペアで活動する場面があったのもよかったと思います。A さんや B さんには注目していたのですが、二人とも声は小さいけれども笑顔も見せながら活動していました。ペアになる相手の子どもについては、配慮して決めました。A さんの振り返りに「同じできごとでも、全然違う考えができておもしろいと思った」と書かれていて、A さんを認めるチャンスだと思ったので、全体に紹介しました。



自分づくりシート

学校生活についてのアンケート 分布図

事例

「指導プログラム」選びの事例2

右の Y-P Zuzie 仲間づくりシートの左上の数人や左下に置いた子どもたちの配慮を伸ばしたいと考えました。自分の学級は、積極的な雰囲気がある点はよいと思うのですが、もっとお互いが温かい雰囲気で接するようになってほしいと感じています。横浜プログラムの観点で言うと、「配慮」が課題なのだと思います。

そこで、「配慮」の「⑭あたたかい言葉をかける」というスキルを高める指導プログラムを実践したいと考えました。これは、学年全体の課題でもあるという話し合いをしたので、3学級で揃えて、宿泊体験学習の機会に「36 ありがとうをあなたに」という指導プログラムを実践することにしました。

実践した指導プログラム「36 ありがとうをあなたに」

【プログラム活用の感想】 お互いに感謝することを意識して体験学習の活動ができたことにより、今までとちょっと違う温かい雰囲気づくりができました。特に、自分中心の言動が多い A さんが、思ったよりグループの子のよい面を見ていて具体的に書いていたことに、驚きました。教師の見方にも偏りがあったと反省しました。また、まじめに取り組んでいるのに自己評価の低い B さんが、他の子からたくさん認められる機会になったのも良かったです。作成した掲示物を懇談会の機会に保護者に見てもらえたのも、子どもたちの自信につながったと思います。「ありがとう」と自然に言える学級風土づくりに、結びつけていくいい材料になりました。



仲間づくりシート

学校生活についてのアンケート 分布図

実践2

Y-P Zuzie のまとめを「教科等の授業」に活用する

横浜プログラムは、教科等の授業にも活用できます。

下の授業展開例のように、授業の目標に、6つの観点や18のスキルを入れることにより、教科の目標をめざすとともに社会的スキルを高める授業をデザインできます。

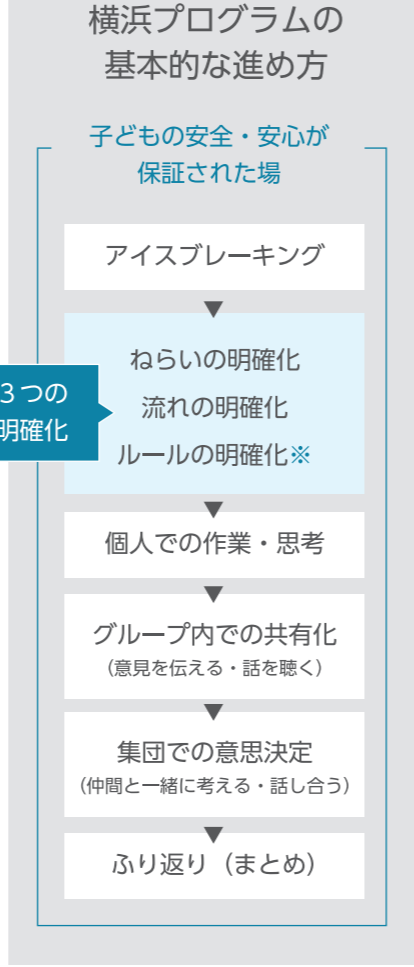
また、右図に示した「横浜プログラムの基本的な進め方」を教科等の授業にとり入れると、だれもが安心して参加でき、わかりやすい授業がデザインできます。

中学3年 社会科 公民的分野 私たちと現代社会
「部活動の予算配分を考えよう」

本時目標と本時展開
部活動の予算配分の事例について自分の意見を持ち話し合うことを通して、「対立」する点を明らかにし、きまりを決定する「合意」に向けて、「効率」「公正」の視点から考察する

本時で高めたい社会的スキル
①自分づくり ②自分なりの見方や感じ方をもつ ③自他のよさを見いだす
④集団づくり ⑤互いの感情や意見の違いを認めながら、集団の意見をまとめようとする

| | | |
|---|--|---|
| <p>学習活動 ※今回の指導案は、学習活動のみを示し、予想される子どもの反応等は省略しています。</p> <p>【活動のねらいの提示】 みんなが合意できる部活動の予算配分を考えよう</p> <p>1 予算の執行案(1)～(4)について「効率」と「公正」の視点から自分の意見を持ち、グループでどの案にするか決め、発表する</p> <p>【活動の流れの説明】 ① 自分一押し案とその理由を個人シートに書く(5分) ② グループリーダーと記録係と発表者を決める。 ③ グループで一人一人が一押し案と理由を発表する(リーダーから時計回り順) ④ 1～4案のよい点と問題点を2色の付箋に一人一人が書く(10分)(よい点○色 問題点□色) ⑤ 付箋を貼りながら、一人一人が順番に一つずつ発表する(15分) ⑥ グループの一押し案を決め、理由を書く ⑦ 各グループの発表者が、全体に発表する ⑧ グループで振り返りの話し合いをする</p> <p>【約束の説明】 →なぜそう考えたか、根拠を言う →自分と違う意見でも、尊重する →反論するときは、相手の意見を最後までよく聞いてから →少数意見を尊重する →人の意見を聞いて考えが変わること大歓迎 →思いつかないときは「パス」という →「グループの一押し案」は、多数決で決めない</p> <p>2 まとめと振り返りをする ・グループで振り返りの話し合いをする ・振り返りシートに分かったことと感想を書く</p> | <p>高めたいスキル</p> <p>自分づくり ②自分なりの見方や感じ方をもつ ③自他のよさを見いだす ④集団づくり ⑤互いの感情や意見の違いを認めながら、集団の意見をまとめようとする</p> | <p>・指導上の留意点(資)資料 【評】評価規準 (ス)社会的スキルを高めるための支援・留意点など</p> <p>活動の前に、3つの基本ルール(「暴力NO」「パスOK」「持ち出し禁止」)を確認する</p> <p>(資)「部活動の予算配分を考えよう」(資料・ワークシート・まとめシート) ・前時までに学習した「効率」と「公正」を根拠にしながら自分の意見を持ち話し合ったりすることを確認する</p> <p>【ス】「活動の流れ」「約束」が分かりやすいように掲示しながら説明する ・机間指導の際に、「効率」と「公正」をふまえた根拠を書いている生徒を賞賛し、根拠を書こうとする意欲を高める</p> <p>・個人シートに根拠を書けない生徒に助言する</p> <p>【ス】グループ内での発表の際、約束の通りに自分と違う意見でも最後まで聞くことができるか見て、必要があれば助言する。また、意見を言うのが苦手な生徒の発表を支援する</p> <p>・個人シートのメモが不十分でも、話し合いの中で他の生徒の意見をヒントに根拠を述べている場合、大いに認める</p> <p>【評】④「対立と合意」、「効率と公正」という観点でとらえて考察し、自分の考えや意見を適切にまとめ、表現している</p> |
|---|--|---|



- ※3つの基本ルールの遵守
- ・嫌なことを言われない・されない(暴力NO)
 - ・参加を強制しない・されない(パスOK)
 - ・ここだけの話(持ち出し禁止)

※ねらいにせまるための約束
(左指導案例《約束の説明》参照)

3つの明確化により、子どもが安心して参加でき、わかりやすい授業になります。また、個人⇒グループ⇒集団という学習展開にすることにより、だれもが自分の考えをもち、伝え合ったり聴き合ったりする場面を創り出せます。

事例

「教科等の授業」に活用した事例

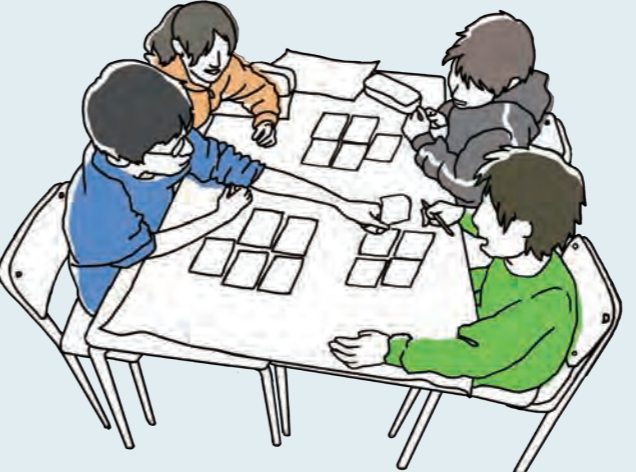
小学校6年生の社会科「戦争の時代から平和の時代へ」の、戦争中の写真資料から気づいたことや考えたことを出し合う授業で、横浜プログラムの基本的な進め方を活用しました。一人で考える時間を設けて、付箋に考えを書き、4人グループで付箋を貼りながら発表しようという流れです。社会的スキルのねらいは、「①自分の意見をもつ」「③自他のよさを見いだす」の二つにしました。

「ねらい」「流れ」「ルール」を明確にして掲示したことにより、誰もが参加できる授業になり、どの子どもグループ内で発言できました。一人で考える時間に、配慮が必要な子への支援を意図的に行ったこともよかったと思います。



特に、今まで授業で発言することがほとんどなかったAさんが、グループの中で発表できたことが大きな前進でした。グループの他の3人がAさんの発表に一生懸命耳を傾けていたことも印象的でした。グループでまとめを考える時には、Aさんが、自分でペンをとって、まとめの一部を書いたのですが、これは、初めてのことでした。Aさんの自尊感情が高まった瞬間だと思います。グループのメンバー構成について、Y-P アセスメントをもとに考えたことも効果があったと思います。

また、Y-P Zuzie を使って検討した学級全体の傾向や、一人ひとりの子どもの課題を、指導案に盛り込んだこともよかったです。「公正」「寛容」等の用語を指導案に使うことで、指導案検討や研究協議の際、学校全体での共通理解がしやすかったです。また、顔写真を見ながら、あらためて一人ひとりについて考える機会になる点もよかったです。



授業後の研究協議会への応用

下の写真は、Y-P Zuzie を研究授業後の研究協議会に応用した例です。協議会場にパソコンを用意し、協議でとり上げられた子どもが、Y-P Zuzie ではどの位置かを見ながら話し合っています。参加した先生方は、授業中での子どもの変容について話し合ったり、今までの子どもの見え方と、その日の授業での姿を比べて考えたり、今後の支援の在り方について検討したりしています。

このように Y-P Zuzie は、授業研究の場面でも、子どもについて話しあう機会を作ります。子どもの顔写真を見ながら話し合えるので、子どもについての共通理解が一層深まります。また、「公正・寛容」等の共通の観点で話し合えるので、子どもについての討議が深まります。



その他期待される応用

- ・部活動やクラブ活動等、学級以外の指導・支援の検討に活用する。
- ・意図的なグループ編成や席替え等に活用する。
- ・学級経営案や学級経営の振り返りに Y-P Zuzie の結果を活用する。
- ・指導案に Y-P Zuzie の結果について書き、6つの観点を学校全体で共有しながら授業研究を進める。
- ・人権教育を推進するために、Y-P Zuzie を活用して、子どもの育ちについて考える。

写真を置いていく作業を通して、子どもたち一人ひとりについて私はまだ十分に把握できていないのだと感じました。先輩たちが子どもについて語る言葉を参考に、明日から、もっと子どもをよく見て、もっと子どもについて語れる教師になりたいと思いました。(1年目担任)

今までの経験から、子どもを固定的に見てしまっている自分に気づきました。他の先生の話聞くことで(後輩の話も!)もっと多面的に子どもを理解するように心がけようと思いました。(21年目担任)

課題の多い子や積極的な子については普段から把握しているのですが、Y-P Zuzie を使うことで、課題も少なく積極的でもない目立たない子について、把握できていない自分に気づきました。目立たないけれども、本当は学級を支えている子どもたちをあらためて観察し、もっと理解したり認めたりしていきたいと感じました。(7年目担任)

Y-P Zuzie を使う時間は、生徒指導上の悩みを話す時間になります。他の先生も悩んでいることが分かって安心したと同時に、子どもたちのために次の手立てを考えようというファイトが出てきました。悩みや課題を、写真を見ながら他の先生に聞いてもらい、アドバイスをもらえることが、自分のステップアップにつながると感じました。(3年目担任)

先生方の声

Y-P Zuzie による支援検討会、指導案作成、研究授業協議会を体験した先生方から

6月と11月の2回、Y-P Zuzie による支援検討会を行いました。5か月の間の子どもの成長が、視覚的に実感でき、うれしかったです。(5年目担任)



昨年から Y-P Zuzie を活用したので、昨年と今年の自分の学級づくりを比較して考えることができました。昨年も今年も、自分の学級づくりに似た傾向があって、教師としての自分の課題が見えてきました。自分と違うタイプの○○先輩から学んで、課題をクリアしたいと思いました。(3年目担任)

研究授業の後の協議会に Y-P Zuzie を使うことで、協議の内容に一人ひとりの子どもの話題が出しやすくなりました。研究授業について話し合うとき、授業の方法の工夫ばかりでなく、そのときの子どもの様子について具体的に話し合うことにより、子どもを中心に考える研究協議がしやすいと思います。(研究推進委員長)

学年の職員と専任とで Y-P Zuzie による支援検討会を行いました。一人ひとりの写真を並べるために、頭と心をいっぱい使いました。みんなで子ども一人ひとりについて考えたので、学年の一体感が高まりました。一体感だけでなく、具体的な手立てや役割分担など、明日からの支援についてみんなで一致させることもできました。(児童支援専任)

Y-P Zuzieのはじめかた

「動画マニュアル」を見て、基本的な使い方を知りましょう

Y-P ZuzieDVDには、活用方法を説明した動画マニュアルがついています。動画マニュアル再生方法に従い動画を再生し、使い方及び効果的な活用の参考にしてください。

1. パソコンへY-P Zuzieをコピー

DVDを開くと、右のような画面が出ます。これら6つを全て、一旦デスクトップ上にコピーします。(DVDから直接動画を開くと動作に時間がかかります。) コピーが終わったら、DVDを閉じ、あとは、デスクトップ上にコピーしたもので操作します。

※(DVDは、バックアップとして「横浜プログラム指導プログラム集三訂版」のファイル等に保管してください)

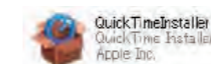
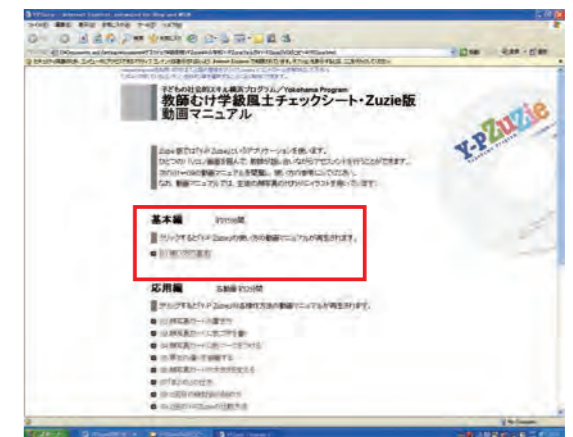


研究として
2013年3月
横浜市教育委員会



2. 動画マニュアルの再生 基本的な操作方法が動画で簡単に分かります!

動画マニュアルのボタンをダブルクリックして、動画のメニュー画面を開き動画を見てください。最初に基本編を御覧いただくと、活用方法の概要が分かります。



使用するパソコンにQuickTimeがインストールされていない場合は、DVD内にあるクイックタイムインストーラを使ってインストールすることができます。また、使用に際して警告が出る場合がありますが、「ブロックされているコンテンツを許可」等をクリックして、作動させてください。

